

帯状疱疹の科学



からだの半分だけ、ちくちくして
水ぶくれがでてきたら・・・

「先生、3日ぐらい前から左の肋骨のあたりがチクチクいたむんだよ。」「左の肋骨ですか…」「それで、今日になったら赤いぶつぶつがバーってでてきて。まさか…ガンじゃねえだろうなあ…」「ガンじゃありませんねえ。これは、タイシヨウホウシンです。」「なんだい？そのタイシヨウウなんとかって」「

「帯状疱疹」というのは、10人に1人くらいにみられる、比較的良くある病気です。たいいていの人は子どもの頃に「水ぼうそう」にかかったことがありますよね。小さい水ぶくれが体中にできて1週間ぐらいて治ったはずですが、でも、治ったあとも「水ぼうそう」のウイルスは実は「座敷わらし」のように人間の神経のわきにひそかにすみ続けているのです。そして、体が弱ったときを見はからって、忘れたころに突然ワーツと暴れますのです。これが、「帯状疱疹」といわれる病気の正体です。この、「帯状疱疹」はまず、体の左右どちらかの半分に、神経にそってちくちく痛むところからはじまります。体の胸からわき腹にかけて現れることが多いです。(でも、「このときは、診断がむずかしいです」(そして、3、4日たつといきなり赤く小さい水ぶくれがバーッと現れます。この時点では、はっきり「帯状疱疹」と分かります。)(だから、痛いときにみて、診断がつかなかった医者はよく数医者だといっておこられてしまうことがよくあります。)

治療は、ウイルスをやっつける薬をのんだり、点滴したり、塗ったりすることです。



たいいてい1週間ぐらいいすれば治まるのですが、まれに、痛みだけが残って長期間続いてしまうことがあります。また、顔の近くにできたときにも眼や、耳などが悪くなることがあるので必ず医者に相談してください。

予防は、体が弱って、免疫力が下がっていると出やすくなるので、よく食べ、眠り、ストレスをためないようにするしかありません。病気は違っても、体に良いことの基本はかわりないのですね。

(ことぶき共同診療所医師 鈴木 伸)